



慶應言語学 コロキウム

慶應義塾大学言語文化研究所
The Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies

Binding and Agreement in the Miracle Creed Framework

講師：小町 将之（静岡大学）、大宗 純（関西外国語大学）

討論者：豊島 孝之（東北学院大学）

司会・コメンテーター：内堀 朝子（東京大学）、北原 久嗣（慶應義塾大学）

日時：2025 年 10 月 11 日(土)～12 日(日) 13:30-18:30

会場：慶應義塾大学三田キャンパス北館大会議室 ※対面開催のみ

使用言語：日本語

参加申込：研究所ホームページもしくは右のQRコードよりお申込み下さい

- * 準備の都合により、事前申込をお願いいたします。
- * 事前にお申込みいただかない方の当日参加も可能ですが、会場にて参加者カードへの記入が必要となります。
- * 今回のセミナーは生成文法研究の専門的知識が前提となります



本発表では、Chomsky (2024) の Miracle Creed の枠組みとその拡張版である Kitahara and Seely (2025) を再検討した後、これらの枠組みの基、特に束縛現象と一致現象を中心に議論を展開する。これらの現象については、Chomsky (2024) や Kitahara and Seely (2025) において詳細には議論されておらず、例えば、(1a) のような単純な束縛現象においても説明が待たれている。

(1) a. John saw himself. b. *John saw ~~John~~. (~~John~~: a lower copy of John (i.e. PRO))

Chomsky (2024) では、外項は v*P フェイズに含まれないと仮定された。よって、(1b) の非文法性は、外項 John (主語) が内項 John (目的語) と同フェイズ内に含まれていないため両者間にコピー関係が成立し得ないと説明される。対して、(1a) では、v*P フェイズを超えた外項と内項の関係が必要である。本発表では、Chomsky (2024: 30-31) の示唆に従い、フェイズ主要部による himself への参照がそのようなフェイズを超えた関係を成立し得る可能性を探る。

一致現象については、例えば、(2a) のような一致現象を説明する必要があるように思われる。

(2) a. There *is/are three books on the shelf. b. Three books are on the shelf.

Miracle Creed の枠組みで前提とされているラベル理論 (Chomsky (2013, 2015)) に従うと、(2b) のような場合は、素性共有を基にしたラベル付けを介した一致が行われる。つまり、[[three books] IP] という構造において、最小探索が IP 指定部にある three books の phi 素性と INFL の未与値 phi 素性を発見することによりそれらが一致する。この一致の仕組みは、(2a) のように一致対象の three books が IP 指定部に併合していない場合は成立し得ない。本発表では、このような場合には再定義された Chomsky (2000, 2001) の探査子・目標一致関係が成立していると主張し、その帰結を探る。

参考文献

- Chomsky, Noam. 2000. Minimalist Inquiries: The Framework. Roger Martin, David Michaels and Juan Uriagereka (eds.), *Step by Step: Essays on Minimalist Syntax in Honor of Howard Lasnik*. 89-155. Cambridge, MA: MIT Press.
- Chomsky, Noam. 2001. Derivation by Phase. Michael Kenstowicz (eds.), *Ken Hale: A Life in Language*. 1-52. Cambridge, MA: MIT Press.
- Chomsky, Noam. 2013. Problems of Projection. *Lingua* 130:33-49.
- Chomsky, Noam. 2015. Problems of Projection: Extensions. Elisa Di Domenico, Cornelia Hamann, and Simona Matteini (eds.), *Structures, Strategies and Beyond: Studies in Honour of Adriana Belletti*. 3-16. Amsterdam: John Benjamins.
- Chomsky, Noam. 2024. The Miracle Creed and SMT. Matteo Greco and Davide Mocci (eds.), *A Cartesian Dream: A Geometrical Account of Syntax in Honor of Andrea Moro*. 17-39. Lingbuzz Press.
- Kitahara, Hisatsugu & T. Daniel Seely. 2025. Simplifications and Extensions of the Miracle Creed. *Linguistic Variation*. Amsterdam: John Benjamins. DOI: 10.1075/lv.00040.kit

共催：科学研究費助成 基盤研究(C) 25K04101 『併合と最小探索に基づく日英語比較研究：統辞構造はどのように生成され解釈されるのか』

主催 慶應義塾大学言語文化研究所

[お問い合わせ先]

〒108-8345 港区三田2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所
電話：03-5427-1595 (事務室直通) メール：genbu@icl.keio.ac.jp
<http://www.icl.keio.ac.jp>